

Close-up Interview

Jason Belmonte

ジェイソン・ベルモンテ

両手投げのパイオニアからのメッセージ
ダブルハンドでいこう！

3月のPBAチャンピオンシップで史上最多となる11個目のメジャータイトルを獲得したジェイソン・ベルモンテ。ボウリングに世界ランキングがあるならば、現在のナンバー1に指名しても、異論をさしはさむ人は少ないだろう。彼の影響が大きいと思われるが、日本のジュニアにも両手投げ(ダブルハンド)のパイオニアでもあるベルモンテに、その極意を聞いた。

自分で編み出した投法

—PBAチャンピオンシップの優勝おめでとうございます。

(日本語で)アリガトウ。

—PBAのレジェンドでもあるアール・アンソニー、ピート・ウエバーを抜いて単独トップに立った感想はいかがですか。

ボウリング史に大きな足跡を残してきたアンソニーやウエバーには尊敬の念を抱いています。だからこの記録は大変光栄だし、誇りに思っています。

—通算タイトル21のうち11がメジャータイトルです。メジャートーナメントに強い理由はありますか。

メジャーの大会は、通常長いゲームのフォーマットで行われることが多いので、スタートで多少出遅れても、追いつく時間的な余裕があるというか、落ち着いてゲームプランを立てられるし、リズムに乗りやすい気がします。またオイルパターンが難しい設定が多いというのも、自分のスタイルに合っているかなと思います。

—日本ではまだ勝っていませんね。

もちろんよくわかっているよ(笑)。日本にくるようになって15年ぐらいになるのに、勝っていないのは、ちょっと気持ちがいまいちです。今回も来日する機内で、なぜ勝てないんだ

ろうと考えたけど、結局結論は出なかった。ただ振り返ると、ボールの選択を間違えたり、何か大きな判断ミスをしてしまうことが多かった気がします。今回はそういう判断ミスをなくしたいですね。(このインタビューは大会前日の4月26日に行ったが、その2日後、念願の日本での初優勝を果たし、何度もガッツポーズを繰り返していた)

—ベルモンテさんのスタイルは、どのようにして形作られたのですか。

初めてボウリングをやったのが1歳半のとき。当然片手で持つことはできませんから、両手で投げていましたが、そのままずっと両手投げできました。若いときもコーチについたことはないし、今もコーチはいません。だから100パーセント自分で編み出してきた投法なんです。



▲「スピードをつけるには、パチンコのイメージでバックスイングのトップからボールを送り出す」とベルモンテ

—その後成長するとともに、片手で投げていた時代はないのですか。

遊びで投げたことはありますよ。でも片手投げにしよと思ったことはありません。

—その当時、ほかに両手で投げている人はいるのですか。

私が十代のころは、まったくいませんでした。ヨーロッパに両手で投げている選手がいるのをちょっと耳にしたぐらいです。のちに分かったのですが、それがオスク・パレルマ選手でした。両手投げの選手が増えてきたのは、ここ15年ぐらいだと思います。今はアジアやアメリカ、ヨーロッパ、中東などあらゆるところで増えてきていますね。

スピアの練習を怠るな

—ご自分のボウリングでいちばん大切にしているところはどこですか。

たぶんどのボウラーもそれぞれ違うスタイルを持っていて、ほかの選手に聞いたら異なる答えが返ってくると思いますが、私が個人的に大事にしているの

は、投げ終わったときの体のバランスです。ファールラインでバランスを崩してしまうということは、その投球に何らかの問題があったということですし、結果もよくない場合が多いと思います。

—片手投げに対して、両手投げのメリットはどの辺にあると感じていますか。

私はずっと両手投げできたの

で、片手で投げるとどういった感覚になるのかわからないので、非常に難しい質問ですね。ただ客観的に見れば、両手投げの方がより回転を生むことができる、つまりはより強いボールを投げることができる。それが明らかでないかなと思います。

—逆に両手投げゆえの難しさはありますか？

回転の多さが、不利に働く場合がありますね。比較的真っすぐなラインが投げにくい。また両手投げは回転がかかりすぎるので、難しいオイルパターンのときに、ちょっとしたミスが、結果に大きく出てしまうことがあります。そのために正確性が求められますが、常に一定の投球をすることが、片手投げよりも難しいというデメリットがあるかもしれませんね。

—再現性を高めるための有効な方法はありますか。

練習量ですね(笑)。投げ込んで、投げ込んで身につけるしかないと思います。

—回転数が多いという意味では、スピアの確率を高めることも課題になりそうですね。

非常に大事です。とくに両手投げにとっては、⑩ピンのスピアが最大の課題になりますね。スピアの練習には私も非常に多くの時間を割いています。1投目の練習は一生懸命やっても、スピアの練習はおろそかになりがちですが、とくに若いボウラーの人たちに伝えたいのは、スピアの練習を絶対に忘れるなということです。過去を振り返っても、勝てた大会というのはしっかりスピアを取れた大会で、イージーミスを取った大会では、決していい結果が出ていません。

—日本の両手投げボウラーの多くが直面しているのが、スピードの問題かと思います。片手投げに比べて、スイングの弧が小さいので、スピードを出すのが難しいように感じます。

ひと口に両手投げといっても、スタイルは人によって違うので当てはまらない人もいますかもしれませんが、私の場合は、パチンコをイメージしています。バックスイングでボールが後ろにいく、体は前にいくと、ボー

ルと体が離れますよね。パチンコで後ろに目いっぱい引いたのを、ブンと放してあげる感じで、トップから下りてくる。ボールが体に追いつこうとする、そのときに腰の回転を利用してスピードをつけるように意識しています。

—その投げ方で、体に負担のかかることはありませんか。

これまで腰もほかの部位も、いちども故障をしたことはありません。

—フィジカルトレーニングなどで、意識して強化しているようなところはありますか。

下半身と体幹ですかね。でも鍛えるというよりも、私の場合は柔軟性を重視しています。ストレッチの意味でヨガなども取り入れています。

—両手投げに取り組んでいるジュニアボウラーへのアドバイスがあればお願いします。

二つあります。一つは、いろんなことができるようになってほしい、レーン上のどこでも投げられるようになってほしいと思います。二つ目は、積極的な態度を持ち続けることが大事です。自分を信じ、自信を持つこと。いつでも自分ではできんだと思うことが大事です。

—ありがとうございました。



Jason Belmonte(ジェイソン・ベルモンテ)35歳、オーストラリア出身。2008年からPBAツアーに参戦。今年のDHCカップPBAジャパンインビテショナルで通算22個目のタイトルを獲得。そのうちUSBCマスターズ4勝など、半分の11勝がメジャータイトル。